

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
 (テクニカルスタイリスト 学科)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義・演習・実技	サロン実習と接客技術	90					
講義・演習・実技	総合学習	150					
講義・演習・実習・実技	総合技術	180	○	180			
実習・講義・実験	ヘアケア技術	90	○	90	★	80	
講義・演習	ビジネス情報	30					
講義・演習・実習	選択・まつ毛エクステ・美容W	60	○	60			
実習・講義・演習	選択・サロスタイル・美容W						
実習・講義・演習	選択・ブライダルシェービング・理容W						
講義・実習・演習	選択・メイク・ビューティーコース						
実習・講義・演習	特別授業・選択・アーティストコース・I	240	○	240			
実習・講義・演習	特別授業・選択・アーティストコース・II						
講義・実習	特別授業・ビューティーコース						
総授業時数		840		570		80	
卒業に必要な授業時数							

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制)	2020年度	テクニカルスタイリスト科
授業科目	時間数/回数	担当教員	
サロン実習と接客技術	90時間/30回	小笠原 他教員	

【授業の到達目標】

サロンに必要な接客技術の理解と習得を目標とする。

【授業内容】

自己PR、プレゼンカ・コミュニケーション力を強化し、実務実習につなげていく授業。

【授業計画】

1	自己PR	
2	↓	
3.4	接客マナー	
5	↓	
6		
7		
8~10		
11		
12.13		
14		
15		
16		実習研究
17		
18		
19		実務実習の実践
20		↓
21~26		
27		
28		
29		
30		実務実習の振り返りと課題の提示

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定の基礎条件とし、実務実習における実習録・勤務状況報告書により評価する。

【授業の方法】

講義と演習を基本形式とし、実技を適宜取り入れる。

【教員紹介】

担当教員は、理容師、美容師、エステティシャンとしての経験を活かし、現場で必要とされる知識、技術、接客力を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制)	2020年度	テクニカルスタイリスト科
授業科目	時間数/回数	担当教員	
総合学習	150時間/46回	入口 他教員	

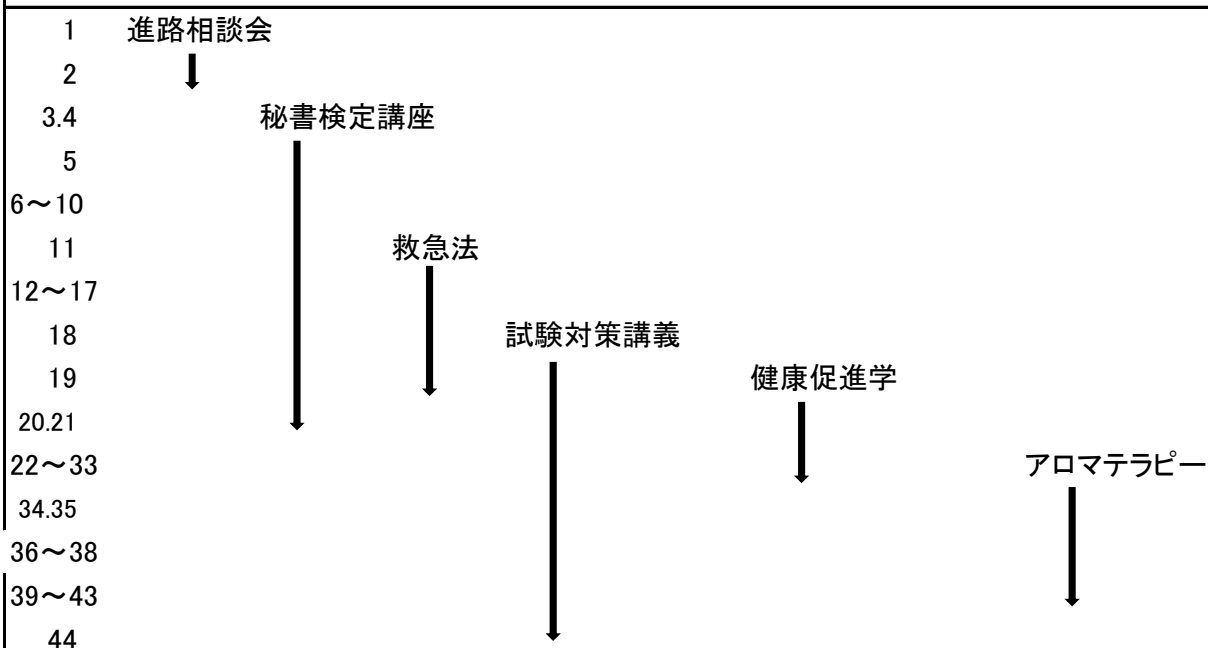
【授業の到達目標】

現代の理容室・美容室・エステサロンに於いて、必要とされる知識の習得を目標とする。

【授業内容】

キャリア教育(進路相談)や学外学習を通して、幅広い知識必要性を学び、秘書検定資格講座、取得資格の対策授業、救急法等を学んでいく。

【授業計画】



【成績評価の方法・基準】

授業の参加を単位認定の為の基礎条件とし、秘書検定模擬試験・試験筆記模擬の点数を評価する。

【授業の方法】

講義・演習・実技を通して授業を行う。

【教員紹介】

担当教員は、理容師、美容師、エステティシャンとしての経験を活かし、現場で必要とされる知識、技術、接客力を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制)	2020年度	テクニカルスタイリスト科
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○総合技術	180時間/45回	入口 他教員	

【授業の到達目標】

幅広いサービスを提供する為に、現在の理容室・美容室・エステサロンの状況を把握し、特化した技術を習得することを目的とする。

【授業内容】

さまざまな技術研究と施術修得を目指す総合的な授業。

【授業計画】

1	トラブルスキン、ダメージヘアの理解とケア			
2	↓	ハンドマッサージ技術の理解と習得		
3	↓	↓	脱毛技術の理解と習得	
4.5	↓	↓	↓	
6~8	↓	↓	サロン技術の研究 レポート①	
9~11	↓	↓	↓	
12	↓	↓	↓	
13~17	↓	↓	↓	衛生内容の理解
18	↓	↓	↓	↓
19~21	↓	↓	↓	資格取得対策
22~24	↓	↓	↓	↓
25~28	↓	↓	↓	↓
29	↓	骨格矯正	↓	↓
30	↓	↓	↓	↓
31~33	↓	↓	↓	タイ古式マッサージ レポート②
34~36	↓	メイクセラピー	↓	↓
37.38	↓	↓	↓	↓
39~43	↓	↓	↓	↓
44	↓	↓	↓	↓
45	↓	↓	↓	↓

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、2回のレポートを提出する。授業における発言や態度の平常点を5割、2回のレポート内容を5割として評価する。

【授業の方法】

講義・演習・実習・実技を通して授業を行う。

【教員紹介】○実務経験のある教員の授業

担当教員は、理容師、美容師、エステティシャンとしての経験を活かし、現場で必要とされる知識、技術、接客力を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制)	2020年度	テクニカルスタイリスト科
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○ヘアケア技術	90時間/28回	☆入口 他教員	

【授業の到達目標】

業界で実践されているヘアケアの理論と技術の習得を目的とする

【授業内容】

業界で必要とされるヘアケア技術を多岐に渡り学ぶことで、毛髪に対しての理解を深めていく授業。

【授業計画】

1	ヘアブローの基礎理論	
2	ヘアブローの理解と実践	
3		
4		
5	ワックス脱毛の理解と実践	
6		
7~9		
10	光脱毛、毛髪診断の理解と実践	レポート①
11.12	チェック①	
13~16		
17		
18		
19	クリームバスの理解と実践	
20		
21~24		
25		
26		
27		
28		チェック②

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、チェックテストを2回行い、レポートを提出する。レポート内容を5割、チェック2回を5割で評価する。

【授業の方法】

実習を基本とするが、講義・実験も適宜取り入れる。

【教員紹介】○実務経験のある教員の授業

担当教員は、理容師、美容師、エステティシャンとしての経験を活かし、現場で必要とされる知識、技術を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制)	2020年度	テクニカルスタイリスト科
授業科目	時間数/回数	担当教員	
ビジネス情報	30時間/13回	斉藤 他教員	

【授業の到達目標】

サロン経営、購買心理を研究し、現在のサロンの戦略を理解することを目標とする。

【授業内容】

サロン経営、購買心理、関連法規全般について学び、現在のサロンの戦略法を研究していく。研究発表に於いては研究した戦略についてをプレゼンしていく。

【授業計画】

- 1 サロン経営について
- 2 ↓
- 3 関連法規
- 4 ↓
- 5 ↓
- 6 購買心理とは
- 7 購買意欲の7段階
- 8 アプローチ方法
- 9 ↓
- 10 ↓
- 11 広告研究①
- 12 広告研究② レポート①
- 13 広告研究発表

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、研究発表に於いて広告研究をプレゼンし、レポートを5割、プレゼンのチェックシートを5割で評価する。

【授業の方法】

基本は講義形式で行うが、グループワークなどの演習を適宜取り入れる。

【教員紹介】

担当教員は、理容師、美容師、エステティシャンとしての経験を活かし、ビジネス情報を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制) アーティストコース	2020年度	テクニカルスタイリスト科 アーティストコース
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○選択・まつ毛エクステ・美容W	60時間/18回	別府	他教員
【授業の到達目標】			
まつ毛エクステーションの基礎理論と技術を学び、初級認定資格を取得する。			
【授業内容】			
まつ毛エクステーションや衛生に対する知識・技術・接客力を習得していく授業。			
【授業計画】			
1	まつエクとは概要・衛生・目とまぶた/粧材説明とテーブルセッティング		
2~3	アレルギーについて・カウンセリングとアフターケア/テープワーク		
4~9	ツィザーワーク		
10	筆記対策	小テストと解説・まつエクのデザイン	
11~17	タイムアップトレーニング 筆記小テスト		
18	検定		
【成績評価の方法・基準】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、資格試験合格を持って評価する。			
【授業の方法】			
講義・演習・実習を通して授業を行う			
【教員紹介】○実務経験のある教員の授業			
担当教員は美容師としての経験をいかし、現場で必要とされる睫毛エクステーションの知識、技術、接客力を教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制) アーティストコース	2020年度	テクニカルスタイリスト科 アーティストコース
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○選択・サロンスタイル・美容W	60時間/18回	斉藤 他教員	
【授業の到達目標】			
サロンワークの一連を研究・実践する事を目標とする。			
【授業内容】			
サロンでの一連の流れ、挨拶から始まる接客、技術(カット、カラー、セット)、お見送りまでの流れを考え、体験する事で課題を明確にしていく授業。			
【授業計画】			
1～2 アイロン&ブロー 3 カラー理論 カラー技術(塗布の仕方) 4～6 カラー理論 カラー技術(塗布の仕方、ホイルワーク) 7～8 パーマ理論 パーマ技術(巻き方) 9～14 パーマ理論 パーマ技術 相モデル 15 アイロンの巻き方、ホットカーラーの使い方 16 ピン打ち、結び方 17 編み込み技術・三つ編み、編み込み(表、裏)、ロープ編み、フィッシュボーン、など 18 編み込み復習 エクステの編み方			
【成績評価の方法・基準】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件(7割)とし、授業における発言や態度(3割)を評価する。			
【授業の方法】			
実習形式を基本とするが、講義・演習も適宜取り入れる。			
【教員紹介】○実務経験のある教員の授業			
担当教員は理美容師としての経験をいかし、現場で必要とされるサロン実務の知識、技術、接客力を教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制) アーティストコース	2020年度	テクニカルスタイリスト科 アーティストコース
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○選択・ブライダルシェービング・理容W	60時間/18回	小笠原 他教員	
【授業の到達目標】			
シェービング技術の基礎を学び、最終目的としてブライダルシェービング技術を習得する。			
【授業内容】			
ブライダルシェービングの知識と技術の習得していく授業。			
【授業計画】			
1～2 レザーの使い方 フェイシャルマッサージ(1) 3 腕、足 シェービング 4～6 ネックシェービング(ウィッグ)→基本→応用 7～8 フェイスシェービング(ウィッグ) 9～14 ワンスシェービング(人間モデル)ネックシェービング(人間モデル) 眉毛、耳等 シェービング 15 トワイスシェービング(基本) 16 トワイスシェービング(応用) 17 シェービング(ブライダル) 18 モデル実習			
【成績評価の方法・基準】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件(7割)とし、授業における発言や態度(3割)を評価する。			
【授業の方法】			
実習形式を基本とするが、講義・演習も適宜取り入れる。			
【教員紹介】○実務経験のある教員の授業			
担当教員は理容師としての経験をいかし、現場で必要とされるブライダルシェービングの知識、技術、接客力を教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制)	2020年度	テクニカルスタイリスト科 ビューティコース
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○選択・メイク	60時間/24回	入口 他教員	

【授業の到達目標】

スキンケアからメイクアップの基礎理論と技術を学び、3級資格取得を目標とする。

【授業内容】

化粧品学、フェイスクア技術、メイク検定3級、メイク応用技術を習得していく授業。

【授業計画】

1	メイクとは	
2	メイク検定3級対策	
3		化粧品学
4.5		
6~8		
9		フェイスクア技術 レポート(カルテ)①
10		
11		
12	メイクアップ検定3級試験	
13	メイクアップ応用	
14		
15		
16		
17~20		
21		
22		
23		
24		

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定の基礎条件とし、レポートを1回提出する。
資格試験点数を7割、1回のレポート内容を3割で評価する。

【授業の方法】

知識については講義形式をとり、その他は実習をメインとする。
また、リハーサルについては演習の時間を取り入れる。

【教員紹介】○実務経験のある教員の授業

担当教員は美容師・エステティシヤンの経験を活かし、現場で必要とされる知識、技術を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制) アーティストコース	2020年度	テクニカルスタイリスト科 アーティストコース
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○特別授業・選択 アーティストコースⅠ	240時間/39回	中村 他教員	

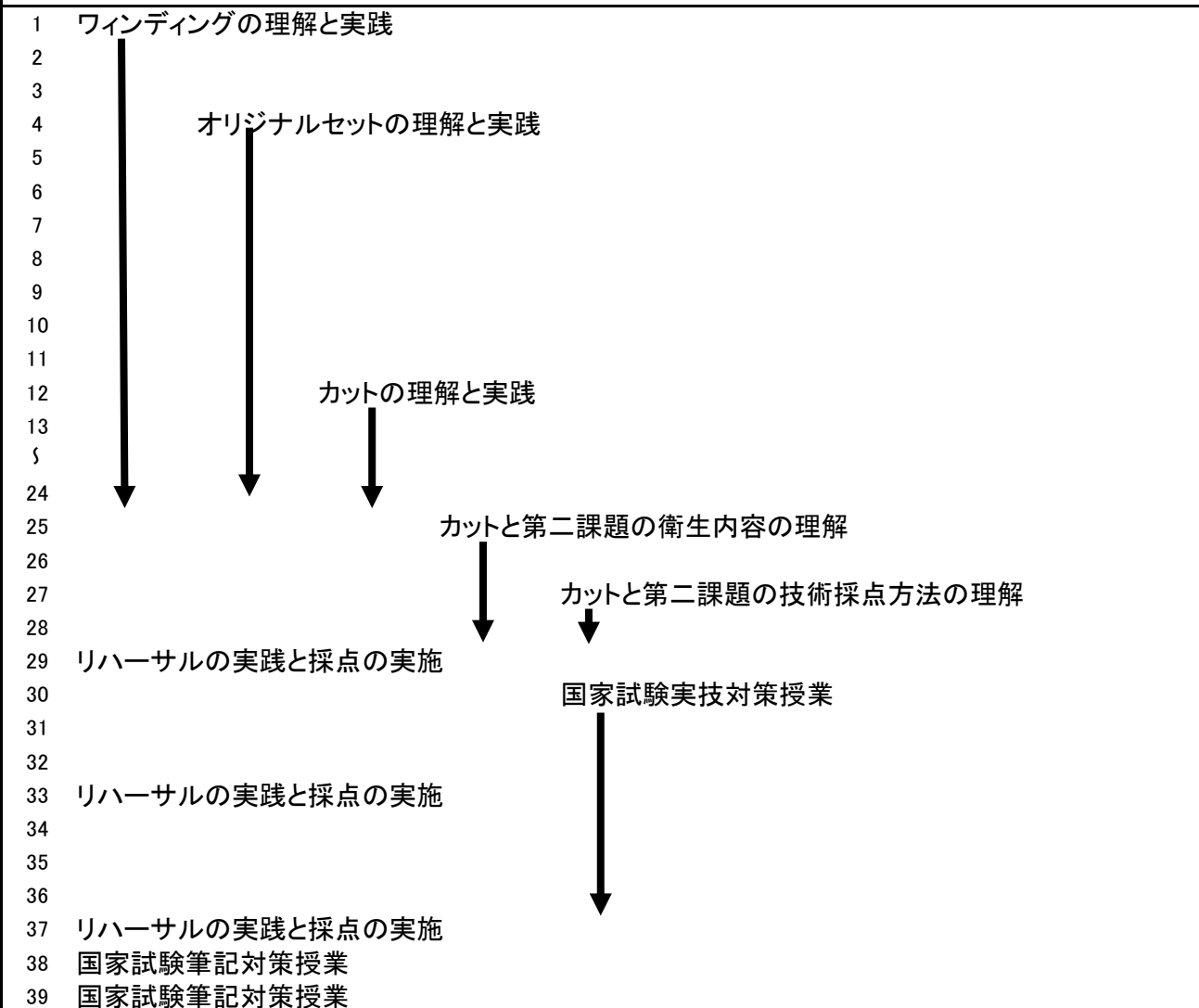
【授業の到達目標】

国家試験に合格できる技術能力、学力能力を習得する。

【授業内容】

国家試験第一課題・カット技術の理解と習得
 国家試験第二課題・ワインディング技術の理解と習得
 国家試験第二課題・オリジナルセット技術の理解と習得 美容技術理論の理解

【授業計画】



【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、リハーサルに於ける国家試験採点マニュアルに基づく衛生、技術の技術能力判定試験 技術理論・学力能力判定試験により評価する。

【授業の方法】

実習形式を基本とするが、講義・演習も適宜取り入れる。

【教員紹介】○実務経験のある教員の授業

担当教員は美容師としての経験をいかし、国家試験取得に必要とされる知識、技術を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制) アーティストコース	2020年度	テクニカルスタイリスト科 アーティストコース
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○特別授業・選択 アーティストコースⅡ	240時間/39回	小笠原 他教員	

【授業の到達目標】

国家試験に合格できる技術能力、学力能力を習得する。

【授業内容】

カット技術の理解と習得 シェービング技術の理解と習得 整髪技術の理解と習得 理容技術理論の理解

【授業計画】

1	シェービングの理解と実践
2	
3	
4	カットの理解と実践
5	
6	整髪技術の理解と実践
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	国家試験実技課題の理解と実践
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	国家試験実技課題の衛生内容の理解
27	
28	国家試験実技課題の技術採点方法の理解
29	
30	国家試験実技対策授業
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	リハーサルの実践と採点の実施
38	国家試験筆記対策授業
39	国家試験筆記対策授業

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、リハーサルに於ける国家試験採点マニュアルに基づく衛生、技術の技術能力判定試験 技術理論・学力能力判定試験により評価する。

【授業の方法】

実習形式を基本とするが、講義・演習も適宜取り入れる。

【教員紹介】○実務経験のある教員の授業

担当教員は理容師としての経験をいかし、国家試験取得に必要とされる知識、技術を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	テクニカルスタイリスト科(1年制)	2020年度	テクニカルスタイリスト科 ビューティーコース
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○特別授業・選択 ビューティーコース(エステ)	240時間/54回	入口 他教員	

【授業の到達目標】

ボディマッサージ・フェイシャルマッサージ技術の習得、かつエステティック協会技術力確認実技試験合格を目的とする。また、センター試験筆記に合格出来る学習能力を習得することを目的とする。

【授業内容】

エステティック概論、皮膚科学、解剖生理学、エステティックカウンセリング、フェイシャル理論、ボディ理論、運動生理学、栄養学、生命活動とホメオスタシス

【授業計画】

1～3 エステティック概論

4～7 ボディ、フェイシャル理論

8 ボディ技術の理解と実践

9

10～12

栄養学

13.14

エステティックカウンセリング

15～17

18.19

フェイシャル技術の理解と実践

20

21～24

皮膚科学

解剖生理学

25～29

30

31～33

34～39

40

41～43

運動生理学

44

生命活動とホメオスタシス

45

46

47

48～50

51～53

54

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定の基礎条件とし、技術能力判定試験点数、理論・学力能力判定試験点数を評価する。

【授業の方法】

理論については講義形式にするが、理解と実践では実習が基本となる。

【教員紹介】○実務経験のある教員の授業

担当教員はエステティシヤンの経験を活かし、資格試験取得に必要とされる知識、技術を教授する。

成績の分布表

《テクニカルスタイリスト科》

2019年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	テクニカルスタイリスト科	学年	1学年	学生数	26	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50～60点	60～70点	70～80点	80点～90点	90点～100点
人数	0人	0人	3人	2人	5人	16人
下位1/4に該当する人数		7人				
下位1/4に該当する指標の数値		78点以下				

成績評価に関する基本指針

テクニカルスタイリスト科

【目的】

シラバスに授業の内容、到達目標、成績評価の方法を記載し、学修成果として各授業科目の評価を行い、厳格かつ適正に単位を与えている。

学業成績は、授業科目ごとに行う試験(定期試験・実技試験等)によって評価される。

履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出(100点満点で点数化)し、その結果を指標の数値で分布している。

成績の分布表は、科目ごとに学生の授業理解度を把握し、一定基準を下回る学生への指導、留年・退学の警告、優秀者の選出、及び教員の授業内容や方式の改善等を図るための資料として利用する事を目的とする。

・下記成績分布表参照

○●●●●年度

客観的な指標の算出方法						
☆						
学科名	●●科	学年	1学年	学生数	●●	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50～60点	60～70点	70～80点	80点～90点	90点～100点
人数	●人	●人	●人	●人	●人	●人
下位1/4に該当する人数 ●人						
下位1/4に該当する指標の数値 ●●点以下						